



みどりっ子便り



「特別支援教育」を考える



雨の朝の傘置き場で、ある1年生の子が「〇〇学級はお勉強ができない学級なの？」と発言しました。その言葉に私はショックを受けました。特別支援学級がどんな学級なのか、児童、おそらく保護者の方々にも理解が十分に進んでいないことをまざまざと知らされたからです。その子に私は「ちがうよ。誰にでも得意なことで苦手なことがあるでしょう。〇〇学級はその苦手なことを少ない人数で練習しているんだよ。同じ学年の仲間なんだよ。」と話しました。するとその子はしばらく考えた後、「私も苦手なことがあるよ。算数が苦手なんだよ。」と話してくれました。

文科省は「特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」と示しています。特別支援教育は全ての児童を対象に行われる教育で、一人一人の苦手なこと、困っていることに寄り添って対応し、お子さんが少しでも学びやすくするための対応策（合理的配慮）を、お子さんを中心に学校と家庭が相談し合って進める教育です。特別支援学級では、少人数の学習環境の中で一人一人に応じたきめ細やかな支援と指導を行うことができます。誰もが長所や短所など様々な特性や個性をもっています。特別支援教育も学校教育も、目指すところは子どもたちの自立です。同じ目標の下に、多様な手法を用いて一人一人の特性や個性に応じた教育が求められています。同じ学年の仲間として、同じ学校の仲間として、一人一人の特性や個性、その違いを認め合いながら力を合わせられる学校でありたいと思います。

ひまたんだより

緑ヶ丘第一小学校
 ひまわり・たんぽぽ学級だより
第 7 号
 R6. 6. 21 (金)

美術館に行ってきました

6月14日金曜日。朝からなんだかみんなワクワク、いよいよ出発の時、体育館に向かう6年生に「いいなあ〜」と羨ましがられつつ、バス停に向かい、バスを待ちました。バス到着。順番に並んで整理券を取り、バスに乗り込みます。「整理券忘れないで！」と声をかけられた子が何名か。バスの中では静かに、杖をついている人には席を譲り、カーブのときの車体の揺れに耐え…。もうすぐ美術館！というときに、「〇〇君の整理券がない！」という声が…。え？整理券取ったよね？椅子の隙間に落ちた？と勘違いする担任。(…ちなみに整理券は自分できちんと持っていました。)
 美術館では、絵に興味がある子は熱心に、そうでない子もそれなりに静かに鑑賞していました。そして何より楽しそうだったのは、美術館の外にあるワザのモニタリングでした。
 それにしても、学校や家を離れて公共の施設を使う、ということには、自己管理能力や計画を立てて実行する力が必要なのだな、と改めて感じました。どうしても学校にいると、「鉛筆が落ちているよ。」と片付けを促したり、「これが終わったらそれをして。」と指示されたりしがちです。しかし子どもたちははやがて、自立して自分で考え、実行し、自己管理をしなければなりません。今回の美術館行きは、「自己管理する」ということを学ぶことができたとても良い機会でした。良い意味で子どもの手を放すことができる活動を、これからは組んでいかなければ、と思いました。(実は手を放すことをためらっているのは我々大人かもれません…)









お知らせ



委託用務員として本校に12年の長きにわたりお勤めいただいた渡辺正一さんが、この度ご勇退されることとなりました。学校周りの土手の草刈りや校庭の除草、玄関前の植物や生き物の世話、校舎内外の清掃や整備、プール清掃など、お世話になったことを挙げればきりがありません。正一さんのおかげで、本校はいつも美しい学習環境が整えられ、みどりっ子たちはその整備された環境の中で安心して思う存分学ぶことができたのです。これまでのご功績に心より感謝申し上げます。7月1日より同じく委託業務員として佐藤幸雄さんが本校にお勤めいただけることとなりました。どうぞよろしくお願いたします。